

運動部員に対する一般学生の態度. Ⅱ

神 代 古 典

The feeling of the students in general to the sports-club students. Ⅱ

Hisanori KAJIRO

強い運動部をもつ大学では、運動部員に対する一般学生の態度は、かなり非好意的である。これは、運動部員の行為様式、学業への取組み方、大学当局の優遇措置など、社会的存在としての運動部員に対する一般学生の批判的態度に根ざしている。

態度を、より分析的に測定するために、性格検査作成法を準用して、5個の下位尺度（公正・活動性・宣伝・粗暴・勉強）から成る態度尺度を作成した。これを用いて態度調査を行い、運動部員に対する一般学生の批判的態度を実証する。

Ⅰ. 研究の目的

小林¹⁾は、対外試合で好成績を上げ、社会的知名度の高い運動部（以下、これを「強い運動部」とよぶ）を数多くもつ大学では、運動部に所属していない学生（以下、これを「一般学生」とよぶ）の運動部に対する態度が非好意的方向に寄っているということを見出した。その後、神代・小林・池田²⁾は、運動部員に対する一般学生の態度を測定して、やはり同様の結果を得るとともに、そのような非好意的態度が、運動部員の行為様式、学業への取組み方、大学当局の運動部員に対する優遇措置など、社会的存在としての運動部員に対する一般学生の批判的態度に根ざしていることを明らかにした。

しかし、従来の態度測定の方法では、態度の表面的な部分を把握できるとどまり、態度の構造分析にまで踏みこむことはかなり困難であった。そこで筆者らは、性格検査作成法の手順を導入して先の研究（神代・小林・池田²⁾）のデータを分析し直し、運動部員に対する一般学生の態度の構造を明らかにすることを試みた。本稿は、この試みの過程の結果の報告である。

Ⅱ. 研究の方法

方法は2段階に分かれる。第1段階は、新しい態度尺度の作成であり、第2段階は、この新しい尺度によって先の研究のデータを分析し直すことである。

第1段階：先の研究では、32項目から成るリッカート形式の態度尺度（以下・これを「旧尺度」とよぶ）を用

いたのであるが、これを、続・織田・鈴木³⁾が提案する性格検査作成法の手順にしたがって組み替えた。手順は次のとおりである。

- (1) 尺度の各項目間の相関係数の計算
- (2) 相関行列の因子分析
- (3) 因子負荷量による項目の分類……因子ごとに全項目の因子負荷量の平均値と標準偏差を求め、これをもとに各項目の各因子への因子負荷を大(+), 中(0), 小(-)の3段階に分ける。
- (4) 新尺度の構成：次の4基準により、新尺度を構成する。

i) 1つの尺度は3項目以上の項目によって構成されること。

ii) 同一尺度を構成する項目は0.3以上の相関係数の連鎖が認められ、iii) 連鎖の隣り合った項目相互の因子構造パターンが類似していること。類似とは、3因子の場合、3因子のうちのいずれか1つの符号が異なり、その異なる符号の一方が+か-であれば他が0であること。

IV) 同一尺度を構成する項目の意味内容にある程度の共通性が認められること。

第2段階：先の研究での被調査者と追被調査者の回答表1 被調査者の内訳（2年生・一般学生）

大 学	男	女	備 考
私 立	A	※ 43	強い運動部をもつ大学
	B	※ 79	
	C	※ 150	
	D	78	
	E	80	
国 立	F	※ 97	強い運動部をも ない大学
	G	68	
	H	70	
	I	40	
国立 公立 国立	J	※ 103	
K	50		
L	96		
公立 私立 私立	M	※ 65	
	N	※ 106	
	O	※ 112	

(注) ※ 昭和44年4月～5月調査
無印 昭和45年8月～9月調査

を、新しい尺度によって分析し直した。被調査者はすべて大学2年生の一般学生で、その内訳は表1のとおり。調査時期は、昭和44年4月～5月、45年8月～9月である。

Ⅲ 調査の結果

第1段階

表 I ※に示した被調査者の中から 200名を無作為に抽

出し、旧尺度の各項目に対する反応の4分点相関係数を計算したのが表2である。反応は「賛成」「どちらともいえない」「反対」の3反応形式で、「どちらともいえない」は「賛成」「反対」のうち反応の少ない方に統合した。

表 2 相 関 行 列 表

アイテム	四分点相関係数 (小数点省略)																																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
1		39	44	32	22	-01	24	19	03	09	27	01	23	14	-06	11	06	16	14	14	12	07	13	-07	-03	18	-03	00	14	-03	15	14	
2			41	15	22	07	28	24	15	15	27	23	21	23	13	08	09	18	20	43	15	18	22	-02	04	24	-03	08	25	15	25	13	
3				15	33	06	25	17	10	14	26	08	18	10	04	15	10	16	17	22	14	08	23	-13	-13	12	02	09	00	00	19	21	
4					10	-05	24	14	10	-02	05	10	09	11	-03	-06	09	11	15	16	17	-02	07	-05	07	04	07	04	07	07	07	04	
5						11	16	24	07	08	01	04	20	24	01	13	08	10	03	09	-00	08	14	-11	-07	23	-01	13	04	04	13	08	
6							16	26	38	28	24	26	34	02	23	27	26	33	39	32	30	39	31	32	39	13	14	22	36	42	07	23	
7								21	26	35	44	25	30	01	15	18	27	33	36	24	16	34	29	10	25	27	08	26	31	22	15	18	
8									20	27	20	16	20	22	10	06	14	21	22	12	10	20	15	02	15	15	08	16	15	26	15	04	
9										32	36	27	24	-04	32	35	41	49	57	42	34	33	35	38	31	27	28	42	46	40	07	26	
10											40	24	35	-04	30	31	30	33	29	30	28	41	37	32	27	23	19	34	42	39	19	35	
11												37	34	10	18	29	34	40	39	36	39	34	29	19	23	28	21	21	28	32	19	21	
12													25	-04	11	16	27	18	25	20	33	18	22	29	24	08	16	20	36	36	07	05	
13														08	16	30	28	27	28	24	30	36	33	28	33	22	04	26	24	34	11	30	
14															-05	-02	-00	-08	-06	-06	-12	01	-03	-12	-09	20	04	-15	-01	-00	11	-06	
15																29	26	31	34	34	29	29	17	23	17	17	23	29	28	33	-05	21	
16																	40	31	25	33	30	39	16	17	17	19	15	30	29	22	02	25	
17																		35	31	43	37	48	30	29	27	22	16	26	34	37	-05	25	
18																			51	45	41	38	38	24	29	30	22	39	36	35	06	29	
19																				39	34	37	32	32	37	27	19	40	38	36	03	29	
20																					50	35	29	20	27	19	17	28	36	36	01	23	
21																						36	39	31	38	13	16	-11	37	47	12	18	
22																							37	36	42	23	05	34	44	44	03	21	
23																								33	30	18	17	25	37	41	12	25	
24																									42	14	18	22	39	43	-11	19	
25																										13	04	23	38	49	-08	25	
26																											06	27	30	12	06	18	
27																												18	17	15	17	07	
28																													29	27	10	14	
29																														41	12	20	
30																															06	33	
31																																02	
32																																	

この相関行列をサーストンのセントロイド法で因子分析し、軸の回転を行なったところ、結果は表3のようになった。第4因子以後の負荷量は非常に低いので、回転は第3因子までにとどめた。

そこでこの表3から先述の手順にしたがって項目を分類すると、その結果は図1のようになった。この図では、因子構造が類似した項目の相関係数の最大値が、

0.30以下の項目は除いてある。これによって、図中に点線で示したような5つの下位尺度を構成した。右上の3項目から成る尺度は、フェア・ブレイに関連していると思われるので、これを公正尺度と名づける。

右下の5項目は活動性に関するものであるから、これを活動性尺度とする。左上の3項目は、学校の宣伝媒体としての運動部員の姿を示すものであると考え、宣伝尺

表3. 回転後因子行列表 (小数点省略) (各アイテムの前にはすべて「運動部員は」という言葉がつく)

ア イ テ ム	I	II	III	h ²	ア イ テ ム	I	II	III	h ²
1. 行動的である.	-12	60	19	41	18. 頭が悪い.	37	13	56	47
2. たくましい.	13	57	13	35	19. 授業態度が悪い.	45	15	47	44
3. 動作がきびきびしている.	-09	53	28	37	20. 学力が落ちる.	37	14	51	41
4. 団結力がある.	-02	30	14	11	21. 学業をないがしろにする傾向がある.	57	09	21	37
5. 忍耐力がある.	-07	43	17	22	22. 教師は甘やかしている.	59	13	26	42
6. 威圧感がありすぎる.	54	07	20	33	23. 学校に来る目的がはっきりしない.	49	22	22	33
7. 自己中心的である.	29	43	25	33	24. 学校の宣伝に使われている.	60	-19	14	41
8. 人づきあいがよい.	22	40	08	21	25. 大学当局から不当に優遇されている.	63	-04	09	41
9. 横暴である.	48	04	52	50	26. 試合に勝つことだけを目的にしている.	17	31	29	21
10. 話し合いでなく力によって解決しようとする.	52	22	23	37	27. 上級生の権力がありすぎる.	19	00	25	10
11. 自分で考え行動することが少ない.	44	36	25	38	28. 服装が乱れている.	23	02	52	33
12. 「長いものには巻かれる」という考えの者が多い.	45	18	07	24	29. 暴力的行動に走りやすい.	63	12	21	45
13. アマチュア精神に欠けている.	44	33	18	33	30. 運動部員であるという特権を用いすぎる.	71	05	16	54
14. 男性的だ.	-08	41	-12	19	31. 学生生活にゆとりがある.	09	35	-05	13
15. 授業の出席率が悪い.	32	-09	41	28	32. 学校には必要がない.	26	11	33	19
16. 運動を本業にしている.	28	05	45	28					
17. 運動だけやっていればよいと考えている.	43	05	42	36					

ΣF² 5.11 2.48 2.84
% 16 7.8 8.9

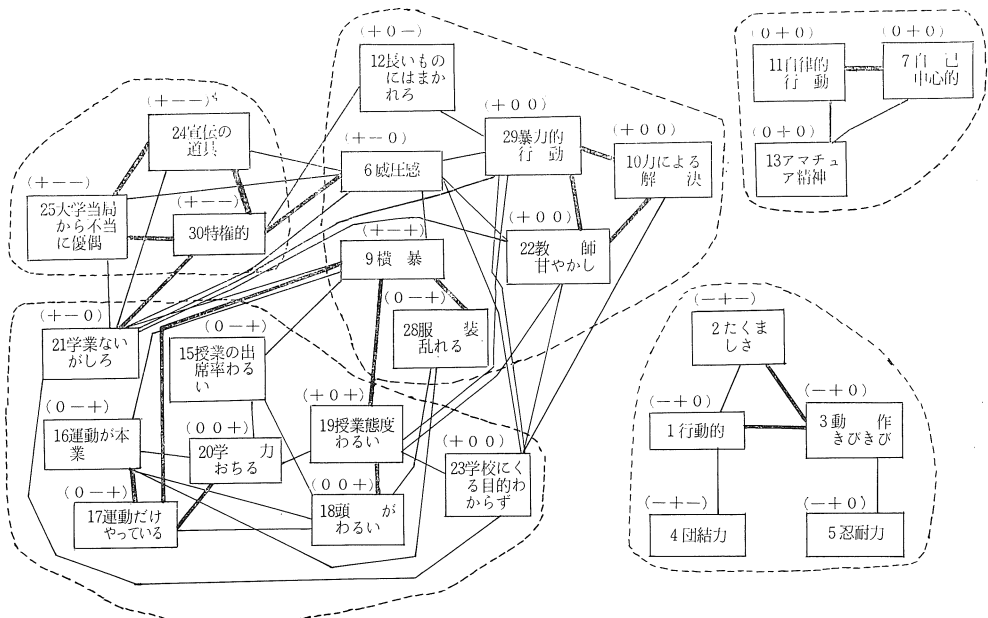


図1 相関係数, 因子分析結果にもとづく尺度項目の関係図
注) (1) — は0.40以上
— は0.39~0.30の相関関係のあることを示す。

- (2) () の +, 0, - は, 左から第1因子, 第2因子, 第3因子負荷量を示し, 因子負荷量と+, 0, -, の関係は次のとおり
+; (平均+1標準偏差) より大の場合
0; (平均±1標準偏差) の範囲の場合
-; (平均-1標準偏差) より小の場合

度と名づける。中央の7項目は暴力的な粗暴な行動に関するものであるので粗暴尺度、下の8項目は勉学尺度と名づける。

以上の結果を整理すれば、表4のようになる。項目番号は、旧尺度の番号ではなく、新たに通し番号をつけたものである。

表4. 運動部員に対する一般学生の態度を測定するための尺度

- 反応は「賛成」「どちらともいえない」「反対」の3反応形式
○各意見の前にはすべて「運動部員は」という言葉がつく

公正	1. 自己中心的である。 2. アマチュア精神に欠けている。 3. 自分で考え行動することが少ない。
活動性	4. たくましい。 5. 行動的である。 6. 動作がきびきびしている。 7. 忍耐力がある。 8. 団結力がある。
宣伝	9. 学校の宣伝に使われている。 10. 大学当局から不当に優遇されている。 11. 運動部員であるという特権を用いすぎる。
粗暴	12. 横暴である。 13. 威圧感がありすぎる。 14. 暴力的行動に走りやすい。 15. 話し合いでなく力によって解決しようとする。 16. 長いものには巻かれるという考えの者が多い。 17. 服装が乱れている。 18. 教師は甘やかしている。
勉学	19. 授業の出席率が悪い。 20. 学業をないがしろにする傾向がある。 21. 運動を本業にしている。 22. 学力が落ちる。 23. 運動だけやっていればよいと考えている。 24. 学校に来る目的がはっきりしない。 25. 授業態度が悪い。 26. 頭が悪い。

第2段階

(1) 合成得点の計算

第1段階で作成した新尺度は、各項目とも「賛成」「どちらともいえない」「反対」の3反応形式であるので、このうち好意的反応を+1、「どちらともいえない」を0、非好意的反応を-1として計算すると、たとえば、公正尺度は項目数が3個なので得点の中は+3~-3となり、活動性尺度は5項目なので得点の中は+5~-5となる。

このように尺度によって得点の中が異なるのは得点を比較するのに不便なので、得点を項目数で割ると、各尺度とも得点の中は+1~-1となる。これを合成得点と名づける。

このようにして計算した大学別の合成得点の平均値は、図2~図6のとおりである。なお、ここで測定しているのは、大学の枠を外した運動部員一般に対する態度ではなく、自分の大学の運動部員に対する態度です。

(2) 尺度ごとの分析

この5つの図でまず目につくのは、図4に見るように、強い運動部をもつ大学と強い運動部をもたない大学との、宣伝尺度の得点のあざやかな対比である。強い運動部をもつ大学では、いずれも、運動部員が大学の宣伝に利用されているという認識が一般学生の運動部員に対する非好意的態度の基底となっている。

図6の勉学尺度、図5の粗暴尺度の得点の分布の傾向は、ほとんど同じで、このことから、この2つの尺度は共に「知性」とでもいうべき因子を測定する下位尺度であると考えることができる。この2つの尺度の得点は、強い運動部をもつ大学と、特に女子大学との間に大きな有意差がある。

図2の公正尺度の得点も、図6の勉学尺度、図5の粗暴尺度と類似しており、大学間の有意差検定の結果もよくにている。

以上の4つの尺度の得点にくらべて、図3の活動性尺度は得点が高く異質である。ここでは、A大学が最高点を示し、私大のH大学が最低である。

(3) 大学ごとの分析

「活動的ではあるが知性に欠け、大学の宣伝の道具となっている」というのは、私立大学の強い運動部の選手に対するごくありふれたステレオタイプなイメージである。そして、このステレオタイプなイメージは、強い運動部をもつ私立大学の運動部員に対するその大学の一般学生の態度に、かなり典型的にあらわれている。特にA大学ではそれが顕著である。

A大学と比較して、B大学・D大学・E大学では、フェアな行動及び知性に対する評価がさらに低く、しかも活動性に対する評価も有意に低い。A大学よりもB大学、D大学・E大学の方が、運動部員と一般学生との断絶の溝は深いといえる。事実、この調査を実施して間もなくB大学・E大学では、自治会と運動部との対立が導火線となって紛争が発生したのであった。

C大学は、強い運動部をもつ5つの大学の中では、一般学生の態度が最も好意的方向に寄っており、強い運動部をもたない、G大学・H大学よりも好意的である。これは、この大学で対外的に知名度の高い運動部が数少な

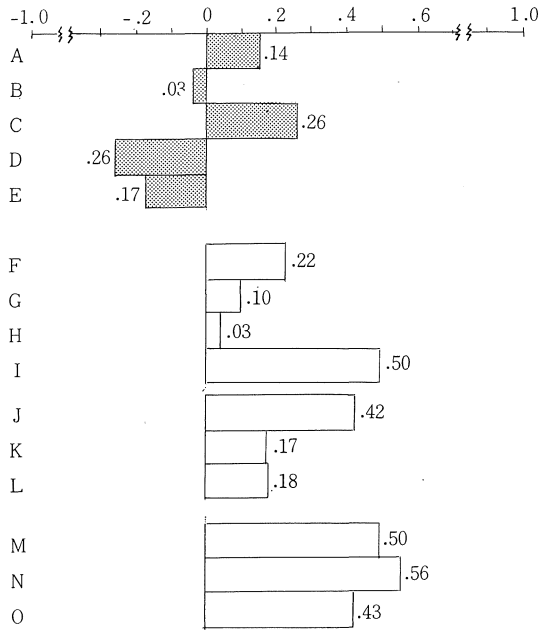


図2 公正尺度のスコア
平均値の差が0.17で有意差アリ

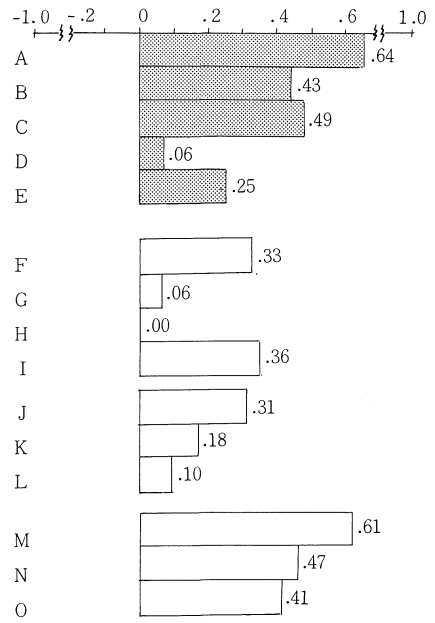


図3 活動性尺度のスコア
平均値の差が0.15で有意差アリ

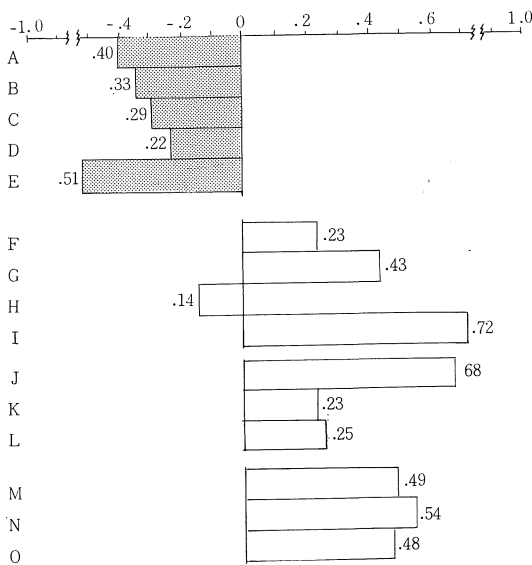


図4 宣伝尺度のスコア
平均値の差が0.18で有意差アリ

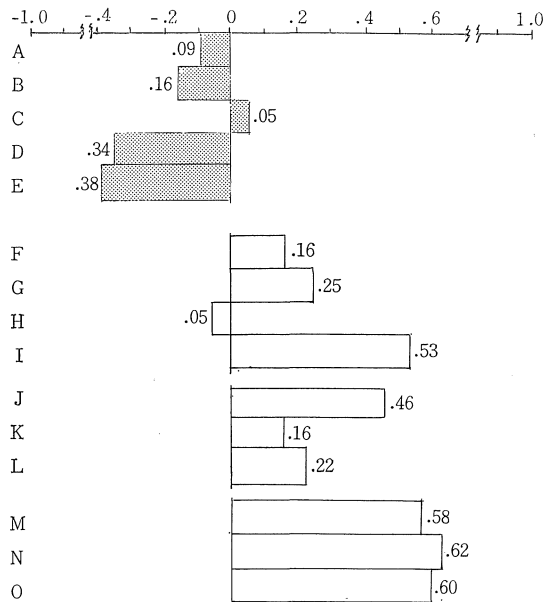


図5 粗暴尺度のスコア
平均値の差が0.15で有意差アリ

[注] A~E.....強い運動部をもつ大学
F~O.....強い運動部をもたない大学
J KL.....国公立
MNO.....女子大

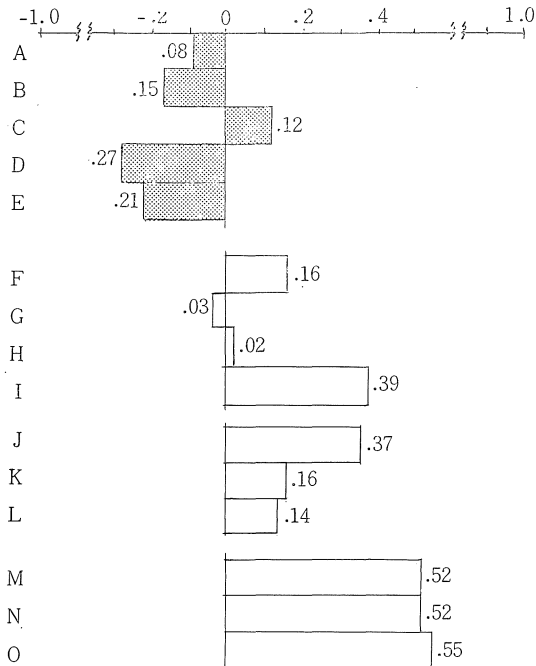


図6 勉学尺度のスコア
平均値の差が0.15で有意差アリ

[注] A～E……強い運動部をもつ大学
F～O……強い運動部をもたない大学
J K L……国公立
M N O……女子大

いという事情に由来することが大きいのであろう。むしろ、宣伝尺度の得点を別にすれば、強い運動部をもたない私立のG大学、H大学の方が一般学生の態度は非好意的な方向に寄っている。

国立のJ大学では、一般学生の態度は全般的に好意的であるが、スポーツマンの特性ともいうべき活動性に対する評価は、予想外に低い。これは、国立大学の運動部員に対する一般学生の態度の1つのモデルを示すものであろう、またJ大学にくらべて公立のK大学、国立のL大学ともすべての尺度に低いあたりを示した。

M大学、N大学、O大学の3つの女子大学であるが、一般学生の態度は全般にかなり好意的である。しかも5つの尺度の得点がほとんど同じであり、大学間に顕著な差がみられない。これらは、強い運動部をもたない女子大学における、一般学生の態度のモデルを示すものと考えてよいであろう。

全体的に見るとI大学の一般学生の態度が非常に好意的であることが目立ちます。

この大学は、学校の方針として、運動部を特別扱いをせず、一般学生と密着させ、活動させていることが、こ

のような結果をうんだことと思われる。これが運動部員のあるべき姿の一つのモデルと思われる。一方では、強い運動部をもつ大学に典型的に見られるように運動部員に対して、一般学生がきわめて非好意的であるという現実があります。この現実とI大学の姿との大きいへだたりが、運動部員はどうあるべきかという問題を投げかけているように思われる。

今後各項目に対する反応を分析して、大学間の違いをみだす原因をくわしく調べていきたいと思います。

<付記>

態度調査の実施に際しては、調査校の体育担当の先生方の好意ある御協力を得た。本来なら、ここにお名前を記して謝意を表わすべきであるが、調査の性質上、本稿での調査校名の公表を避けたので、ここに協力者の氏名を記すことも省略させていただいた。

引用文献

- 1) 小林 篤 (1960) : 運動部員と一般学生の社会的態度の差異に関する研究, 九州大学体育学研究 2—4, 7—14
- 2) 神代古典, 小林篤, 池田隆二 (1970) : 運動部員に対する一般学生の態度 体育学研究 14—5, P・61
- 3) 続有恒・織田揮準・鈴木真雄 (1970) 質問型式による性格診断の方法論的吟味 教育心理学研究 第18巻第1号